

平成 27 年 9 月 5 日

埼玉国際ジュニアサッカー大会 2015 テクニカルレポート

川口市少年サッカー連盟 技術部
原田 健一

今年も 7 月 24 日（金）～7 月 26 日（日）の 3 日間にわたり国際ジュニアサッカー大会が行われました。今年は去年にも増して気温が高く、選手たちには過酷な条件でしたが、大きな事故もなく無事に終わることが出来ました。

1 1 人制 20 分ハーフで特に最終日は大人用のサイズで行われましたが、給水タイムが設けられた他ハーフタイムも 10 分間設定され、炎天下の運営配慮がありました。

1. 結果と内容

7 月 24 日（金）駒場スタジアム（メイン）

第一試合 VS 中国 0-3 ●

第二試合 VS 茨城 0-2 ●

初めて選抜ユニフォームに袖を通しての試合。選手は口では「緊張していない」と言っていますが、プレーには硬さが見られました。特に中国は選手の身長も高く、高い位置からプレスをかけられたため、パワーで圧倒され前線とポジションが分断しまい攻撃の糸口がつかめませんでした。

7 月 25 日（土）与野八王子グラウンド（A）

第一試合 VS 岡山 1-0 ○

第二試合 VS 川越市 0-1 ●

前日の内容を見てフォーメーションを変更した結果、初得点、初勝利を挙げる事ができました。変更したことにより相手、味方との距離が広がりスペースを有効に使いだす事ができました。川越市との試合は何度もチャンスメイクはしましたが、フィニッシュの部分での荒さが目立ってしまい、無得点に終わりました。

7 月 26 日（金）埼玉スタジアム（第 4）

第一試合 VS オーストラリア 2-0 ○

最終日は第 4 グラウンドでフルピッチでの試合でした。ピッチの大きさが変わったこと

によりある程度ボールを保持しながら攻撃することができました。

最終的な結果は24チーム中19位。ナショナルチームや県選抜レベルが相手だとはいえ、「もう少し戦えたのでは？」と思うパフォーマンスを示してくれました。

2. 反省点と課題

昨年度の選考会から始まり、合宿と夜間練習会を通じて感じたことが大きく2つあります。

1つ目は【プレスに弱い】ということです。ドリルトレーニングでのパス&コントロールは上手にこなしますが、対人、ゲーム形式ではその技術が発揮されていないように感じました。上のレベルでやっていくためには強いプレスのかかった中で“観て判断する”事や、“止める・蹴る・運ぶ”を正確に行える事が重要なポイントだと考えます。これは普段のトレーニングから選手たちにしっかり意識させて常にハードワークをさせる必要があると思います。強いプレスがかかる状況でのトレーニングを「当たり前なこと」にすることが大事だと思います。

2つ目は【オフの関わりが少ない】ということです。ひとつプレーをしたらそこでやめちゃうことが多く見られ、狭い局面の中ではワンツーで抜け出そうとする意図も感じられましたが、逆サイドの選手の準備、いわゆる“3人目の関わり”が少なかったと思います。また、カバーリングの意識も低いと感じました。(e x. 味方センターバックがヘディングで競っているときに両サイドバックがカバーリングのポジションをとらない等) これはピンチとチャンスがチーム全体で共有できていない為だと思います。選手たちに自分たちがどういう状況にあるのかということ問いかけていくことが必要だと思います。オフの時にいい準備ができなければ質の高いプレーもできません。サポート・カバーリング・ダイアゴナル等様々な関わりをもっと増やすためにもっと選手たちには今以上にサッカーを知ってもらふ必要があると思います。

本大会の3日間、選手たちは過酷な状況の中一生懸命プレーをしてくれました。ひたむきに取り組む姿勢は素晴らしいと思いました。

最後に、今大会にあたって選手を快く送り出してくださいました各チームの関係者及び保護者の方々、ならびに連盟役員の方々のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

以 上